鶉保育園創設者

堀江愛子先生追悼祈念号

小さな手に
しあわせを

平成 18 年 7 月 1 日

もくじ

はじめに 1

鵜保育園のむかしと今 2

愛子先生と園児たち 3

祈念誌の発刊に寄せて 4

愛子先生をしのんで 5

保育士としてのご活躍 7

堀江愛子先生経歴 9

鵜保育園沿革 11

勲六等瑞宝章受勲 12

小さな手に　しあわせを 13

鵜保育園の誕生 14

園長先生との思い出 15

謝　辞 16

鵜保育園にお世話になって 17

堀江愛子保育者の願い 18

母の思い出 20

編集後記 21

はじめに

「園長先生　さようなら！」毎日、元気よくあいさつをして帰る子供たちの姿が目に浮かびます。とてもさわやかで感心する光景でした。

残念ながらその光景も、平成１６年半ばをさかいに見られなくなりました。愛子先生が、体調がすぐれず入院をされたからです。子供たちは、園長先生である愛子先生に、一日ありがとうという気持ちをこめて、あいさつをしてから帰ることが日課でした。

愛子先生は、１年ほどの闘病生活をされ、平成１８年１月９日逝去されました。葬儀の折、鶉保育園の代々の卒園生、現役保護者、園児が集まり、愛子先生のご逝去を追悼いたしました。愛子先生が鶉地域で残されたさまざまな功績や思い出話が尽きることなく続き、語りつくせないほどでした。そこで、「愛子先生の追悼を祈念して、何か残しましょうよ」とその場に集まった保護者の間で話がまとまり、保護者会より本誌を発刊することになりました。

愛子先生は、職業婦人として生きぬかれ、保育者として鶉地域の人々に多大な功績を残されました。文中で、現園長先生が、母親としての愛子先生から「何やっとるの」という一喝がまさに衝撃で恐怖だったとおっしゃっているように、さぞ躾や礼儀にはきびしかったことが伺えます。そんなきびしさが、書き始めに紹介した「園長先生、さようなら！」という子供たちの礼儀正しさにつながったのでしょう。小さなこどもたちに、礼儀を身につけさせてくださったことは、保護者として感謝にたえません。

本誌では、多くの方々が愛子先生の思い出を語ってくだいました。また、保育園や地域に残された愛子先生のメッセージを語りついでくださいました。鶉地域の方々には、本誌をお読みいただき、当時の愛子先生の姿を、「そうだったね」と懐かしんでいただけることと思います。保護者の方には、日ごろの子供たちに接するときに、愛子先生の保育に対する思いを生かしていただければ幸いです。最後に、今後、ますますの鶉保育園の発展をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

平成 17・18 年度鶉保育園
保 護 者 会 役 員 一 同

鶉保育園のむかしと今

昭和 24 年 5 月～昭和 54 年 3 月

昭和 54 年 4 月～現在に至る

昭和 54 年 4 月～現在に至る

愛子先生と園児たち

平成13年9月13日　敬老運動会　鵜保育園

祈念誌の発刊に寄せて

鶉自治会連合会長　　堀江佑治

このたび、地域と共に歩む鶉保育園とその園を設立し支えていらっしゃった堀江愛子先生の足跡を称えて、祈念誌が発刊され、誠におめでとうございます。

思い起こせば、私が小学校低学年の時担任していただきました加藤（旧姓）愛子先生が、当時同じ学校の先生だった深広寺ご住職堀江知高様とご結婚されたのは、今から何年前になるでしょうか。ご結婚後、地域の要請もあり、また幼児の安全な生活と教育の必要性をお考えになった愛子先生が、鶉保育園を設立されました。

寺院の敷地の一部を埋め立てて園舎を建設、その後改築されて現在の鶉保育園の基礎となりました。鶉保育園へは、校区内の子供さんたちばかりでなく当初は茜部からも多くの園児が通園していました。

婦人会が「幼児教育講座」の開設を要望された時も、ご多忙にもかかわらず快くお引き受けいただきました。今でも講義の内容が地域に役立っています。

また、青少年育成市民会議の委員として活躍され、青少年の健全育成について適切なアドバイスを頂きました。

自治会連合会の校区民運動会には、園児を進んで参加させていただきました。運動会の中で、園児同士がいたわりあいながら踊る様子に、先生のご指導を感じ取ることができました。鶉保育園の園児達は、幼児の頃から友達を大切にする豊かな心を育んで、社会人として立派に活躍しています。

大変厳しい中にも温かい愛情を持って私達を導いてくださった先生に、敬意と感謝の気持で一杯です。ご恩は一生忘れることができません。又、先生の溢れるばかりの笑顔も忘れることができません。鶉校区の地域教育に多大な貢献をしてくださいました愛子先生と、最後のお別れを致しましたことは非常に残念でなりませんが、どうぞ浄土から鶉の子供達をいつまでも見守ってくださいますようお願いし、安らかにとお祈り申し上げます。

愛子先生をしのんで

岐阜県私立保育園連合会　代表 安藤千恵子

堀江愛子先生、長い間全国保育士会、岐阜県保育士会に沢山のご指導を頂き、ありがとうございました。

先生は岐阜師範を昭和十七年三月にご卒業され、その後教員として学校に勤務された後、縁あって堀江家に嫁がれ、保育の仕事に一生を捧げられました。

私が保育の仕事をするようになって四十年経ちましたが、その間先生にはいつも幼い子供達を保育する楽しさや、保育の方法、保育士のあるべき姿について、具体的にご指導いただきました。

昭和四十年から五十年代にかけて、当時、全国保母会の役員をしておられた先生は、保育士の資格を国家資格化するために、保母会役員の中心となって活躍されました。その折には残念ながら保母の国家資格化は実現しませんでしたが、平成十三年に二十五年ぶりに実現した時、先生は「あの時は大変な苦労をしたのに、今度は早く実現できてよかったね」と喜んでおられましたね。また、主任保母の専任配置を目指すため、全国保母会で昭和六十二年に寺尾フミエ会長や故藤田照子先生と共に「主任保母特別講座」を立ち上げられました。その折、県内の受講生には毎月課題レポートの指導をしていただきました。このことが土台となり、平成十年から主任保母の専属配置が認められるようになりました。岐阜県保母会においても昭和三十八年から保母会長を七期十四年努められ、現在の岐阜県保育研究協議会の組織の土台作りに当時の伊東博会長、西垣安之副会長とともに努力されました。昭和五十九年の岐阜市で行われました全国保育研究大会で先生は閉会のご挨拶をされましたが、あのときの無事大会を終えられた晴れやかなお顔と、会場におられた方たちへの感謝の挨拶は今でも私の脳裏に鮮明によみがえってきます。

また、岐阜の保育士達の保育技術向上のためにと「岐阜幼児造形研究会」を立ち上げられましたが、今年で二十六回目の研究会を開催しました。毎回百人以上の保育士達が熱心に参加し勉強しています。せめて三十周年の記念の会までご一緒したいと思っていましたのに本当に残念です。このように保育一筋にご活躍され、昭和五十七年には、中日社会功労賞を受賞、昭和五十九年には勲六等瑞宝章の叙勲の栄に浴されましたことは、県内の保育者全員にとって大変喜ばしいことでした。

堀江先生、本当に長い間ご指導ありがとうございました。心より御礼申し上げます。鶉保育園で「保育の友」のカリキュラム検討会をするとき、夏には「キュウリを漬けたから」とか冬には「白菜を漬けたから」と自家製のお漬物をご馳走になりました。「お忙しい先生がよくつけられる時間があること」と感心しながら皆でおいしくいただきま

したね。ご病気になられ「塩分を控えた食事は美味しくない」と言っておられましたが、どうぞお浄土では心置きなくお漬物を召し上がってください。

最後になりましたが、堀江先生のご指導を受けた私たちは、幼い子供達のよりよい成長発達を援助しながら、岐阜の保育の質の向上と、保護者への支援に力を合わせ、精一杯努力したいと思っています。どうぞお浄土よりお見守り下さい。

（平成 18 年 1 月 12 日　葬儀における弔辞より抜粋）

保育士としてのご活躍

黒野保育園主任保育士　西垣久子

平成１８年度１月９日夜、愛子先生ご他界の訃報に接しあまりの突然のことで、しばし驚愕悲嘆の涙にくれました。先生には長い闘病生活でさぞかしお辛いことだったと思います。ご家族の献身的なご看護の甲斐もなくご逝去され、火宅無常常楽なき浮世とは知りながら、今更のように人間界のはかなさを悔やまれてなりません。

先生は私共のご恩人で一方ならぬお世話になり謝する言葉もありません。先生は私の大先輩で、あるときは慈母のごとく、または姉のようにご指導くださいました。その上、至誠温厚篤実な方で何人も敬慕するお人柄でした。そのため、主なるものとして県保育協議会の保母会長・全国保育協議会副会長等を長らく歴任され、県下はご勿論のこと保育者養成のための講師、短期大学講師として務められるなど、保育界の重鎮としてご活躍になりました。

昭和４８年頃には、県下の保育組織固めをするために保育まつりを開催するご計画をされたり、特に先生は、乳幼児保育（教育）が生涯にわたる人間形成の基礎作りを担ったりということから、保育者の専門職としての重要性と位置づけのために、政令による保母資格を免許制にひき上げようという願いをもたれ『全国保育協議会保育免許法促進委員会』の仕事に力を入れられました。昭和４９年頃からとり組まれ、これは私達の身分にかかわる問題であり、ひいては保育の将来をも決定する重要な課題であることに着目され、何とかして成就させようと陣頭に立って努力されました。そのご功績が顕著なため、勲六等瑞宝章、中日社会福祉功労賞その他数多く受賞されました。

また、昭和５９年には、岐阜市において東海北陸ブロック大会が開催された折、研究発表が当市にあたり、幸い丁度その頃、ある保育所の先生が長年子どものスタンピング遊びに興味をもたれ、継続的に研究されたものを発表され非常に好評でしたことが、今も私の脳裏に鮮明に残っています。これを契機として、先生は『子どもを支える描画表現』の大切さに着目して岐阜幼児造形研究会を設立され、会長として随分ご活躍下さいました。丁度、今年３０周年を迎えることになっているにも拘わらず、この機を待たずしてお亡くなりになり返す返すも残念でなりません。

また、先生は全社協で出版している保育の友に年令別の指導計画を作成投稿されています。５～６人の同志が月々集まり、和気あいあいとしたなかで互いに意見を出し合いながら、ここひとつ意見がまとまらないと愛子先生の一言で決まってしまったものです。その後は、後継者の木之本保育園長の安藤千恵子先生（現保育士会長）が引き継がれ、３歳～５歳まで継続的に作成することが出来、この集大成が１冊の指導書として全社協から贈られてきた時は、当時の苦労もふっとび、学習できたことが何より嬉しく感激い

たしました。

その他、広島大学の武村教授・元全国保育協議会保母会長の寺尾フミエ先生と保育課程１２ヶ月（３・４・５歳児）の作成に愛子先生とご一緒に加わらせて頂きましたが、まとめの時期になるとサンピア岐阜で時間の経過するのも忘れ、はっと気づいた時は夜の１１時頃になったこともあります。思い返せば先生は幾多の功績を残され、常に温かいご指導を賜りました。現今の激動する保育界だからこそ、今後の進むべき方向性をご指示いただきたいと思っている矢先にお亡くなり、実に残念の極みであります。今後は、先生のご遺志を肝に銘じ、努力してまいりたいと存じます。今、永遠の別れかと思うとまた涙がこみ上げてまいります。先生どうか精華の花咲く迦陵頻伽の楽土に安住されますよう、衷心よりお祈りいたします。

堀江愛子先生経歴

生年月日　大正１１年１月３日

学　歴

昭和 16 年 3 月　岐阜県女子師範学校本科一部５年卒業

職　歴

昭和１６年～１８年３月	美濃市州原小学校訓導
昭和１８年～２０年３月	岐阜市鶉小学校訓導
昭和２４年５月５日	住民の要望により私立鶉保育園開設
昭和２４年～５３年８月	私立鶉保育園主任保母
昭和５３年９月～ 平成１７年３月	社会福祉法人深広福祉会鶉保育園園長
昭和６０年７月～ 平成９年３月	岐阜市乳幼児健全育成相談事業委託契約
昭和６１年９月～ 平成１８年１月９日	社会福祉法人深広福祉会理事
平成２年３月～ 平成１８年１月９日	社会福祉法人深広福祉会理事長

公職歴

昭和３８年～４０年３月	岐阜県保母会長
昭和３８年～４０年３月	岐阜県保育協会会長
昭和４６年～６０年３月	岐阜県保育競技会副会長（保母会長）
昭和５０年～平成　２年	中部・大垣・聖徳短期大学非常勤講師
昭和４６年～平成　２年	岐阜県保母試験委員
昭和５８年～６０年３月	全国保育協議会保母会副会長 全国社会福祉協議会中央推進委員

表　彰

昭和２８年　４月２９日	宮内庁より事業奨励により御下賜金
昭和４３年１０月１７日	岐阜県知事賞受賞
昭和５１年１１月１５日	全国社会福祉協議会会長賞受賞

昭和５４年１１月　２日　　厚生大臣賞受賞
昭和５７年　９月　２日　　中日社会功労賞受賞
昭和５９年　５月　８日　　勲六等瑞宝章受勲
昭和６１年１１月１０日　　全国保育協議会保母会長感謝状授与

鶉保育園沿革

昭和２４年　５月　５日　岐阜県稲葉郡鶉村村民の要望に応えて深広寺境内にて保育園を開設
昭和２４年　７月　１日　岐阜県稲葉郡鶉村深広寺保育園で認可
昭和２５年　４月　１日　深広寺保育園を鶉保育園に改名
昭和２８年　４月２９日　保育事業奨励の思召をもって宮内庁より御下賜金を頂戴する
昭和３９年　４月　１日　園舎増改築　定員 80 名を 100 名に変更
昭和５３年　９月　１日　社会福祉法人深広福祉会鶉保育園を設置認可　園長堀江智高を理事長とする　主任保母堀江愛子を園長とする
昭和５４年　４月　１日　園舎全面改築の完成　鉄骨造スレート瓦葺２階建 696．656 平方メートル
昭和５４年　４月２９日　保育事業奨励の思召をもって宮内庁より御下賜金を頂戴する
昭和５８年　４月　１日　出生率低下に伴い定員 120 名を 90 名に変更
昭和５９年　４月　１日　定員 90 名を 60 名に変更
平成　２年　３月２０日　理事長堀江智高　平成 2 年 2 月 24 日死去に伴い、堀江愛子理事長に就任
平成　８年　４月　１日　開園時間を午前７時に変更
平成　９年　４月　１日　一時保育事業開始
平成　１０年　４月　１日　延長保育事業開始
平成　１３年　４月　１日　定員 60 名を 45 名に変更
平成　１７年　６月　１日　堀江謙雄理事長に就任
現在に至る

勲六等瑞宝章受勲

　鶉校区の地域教育で、保育一筋にご活躍され、多大な貢献をされたことに勲六等瑞宝章の叙勲の栄に浴されました。（昭和５９年　５月　８日）

　瑞宝章（ずいほうしょう、Orders of the Sacred Treasure）とは、1888 年（明治21年）に制定された日本の勲章です。国家または公共に対し功労があり、公務等に長年従事し、成績を挙げた者を授与されます。制定当初は男性のみの勲章でありましたが、1919 年（大正8 年）から女性にも授与されるようになりました。勲章はもともと国家のために尽くした者、つまり官史にしか授けられませんでしたが、年賞勲条例が改正され、民間人でも国家のためにつくした者には授与されることとなりました。（フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）参照』）

小さな手に　しあわせを

岐阜県保育研究協議会
保　　母　　会　　長
保育内容研究部会長
堀　江　愛　子

子どもの幸せ・・・・・・。

それは、これからの人生経験の中で、おこるであろう幾多の困難に直面した時、その難関を自分の手で乗り越えられる強い心と丈夫なからだを持ち、常に希望や夢を抱き、その希望や夢を実現のものとするため、いかに努力できる人間になるかということではないでしょうか。

昔から『子は親の後ろ姿を見て育つ』と言われてきましたが、人の性格は乳幼児期に形成され、親の養育態度そのものが子供の成長発達に大きな関わりを持っております。

このように、子供は家庭を生活の基盤としながらも、保育園（所）で過ごす時間は長く、仕事を持つお母さんにとっては、我が子とのふれあう時間は短くなっています。

したがいまして、健やかな成長発達を願うとき、親と保育園（所）が相互信頼の上に立ち、それぞれの立場と役割を正しく理解するとともに、その使命をはたしていくことが、子どもの幸せにつながっていくものと信じています。

この本を「小さな手に　しあわせを」としましたように小さな手で大きな幸せをつかんでほしいという願いをこめて発刊いたしました。

二十一世紀を力強く、精一杯生きていくこどもたちのために、私たちも精一杯努力しようではありませんか。

小さな手に　大きな幸せを！！

昭和 59 年 10 月

『小さな手にしあわせを』p. 8-9
岐阜県保育研究協議会　昭和 59 年 10 月 2 日発行　より抜粋

鶉保育園の誕生

元鶉保育園保育士　土田（旧姓　赤堀）美智子

昭和 24 年、当時の村長岩田政憲さんを始め村民の要望により、深広寺保育園という名称で現在の鶉保育園が誕生しました。

開園当時は園舎もなく御佛堂と南の部屋が保育室で寺の境内が運動場でした。当時お寺の正門の前を南に県道まで道が続いていて、西側には池の在る木の繁った大きな庭があり、池の中には亀などの様々な生き物がいて時には観察遊びもできました。東側、現在の園舎の立っている場所は田んぼでした。その頃はまだ食糧事情もあまりよくなく、アメリカからの支援物資として脱脂粉乳の配給がありました。御庫裏様の協力もあり毎日大きな釜（ハソリ）で沸かしていただいたそのミルク、午後のおやつ、皆で食べる親御さんの手作り弁当が楽しみでした。

しばらくして、鶉小学校の旧校舎の一部を園舎として譲り受けることになりました。村長さんや部落役員さん等のお骨折りにより、村の人たちに勤労奉仕として協力を得る話になりました。車のない当時、解体された建築資材の運搬はリヤカーや大八車、地付きや地ならしなどの作業は人力で、毎日交代での奉仕が続き、園長先生や家族の方の心労も計り知れない思いであったことと察します。その頃近隣村にまだ保育園がなく、他村からも通園児があり、大勢の園児が竣工された園舎に大喜びして、毎日にぎやかでした。お寺の理解、園長先生の努力、村民の汗と力で鶉保育園が誕生したわけです。現在では設備の整った園舎に替わり、子供の数も少なくなりましたが、鶉の地区の子育ての拠点として、いつまでも鶉保育園が輝きつづけることを願ってやみません。

園長先生との思い出

元鵜保育園保育士　　臼井礼子

昭和 32 年 4 月、高校卒業と同時に鵜保育園にお世話になりました。それから平成 18 年 3 月に退職するまで園長先生との思い出を振り返ろうとしてもあまりにも長く、いろいろなことがありすぎて頭の中で整理するのが難しく、古いアルバムから順番に捲る事にしました。

セピア色の 30 年代、春の親子遠足や卒園記念の写真を見ると園児は多いのに職員は少ないことに気が付きました。これは未満児保育をしている現在と異なり、当時は 4・5 歳児がほとんどだった為です。その頃園長先生は「堀江先生」と呼ばれ主任保母としてクラス担任もされ、園児はもちろん、職員にとっても怖い存在でした。しかし春や夏に休日が続いた時は、一泊の職員旅行によく連れて行っていただき、普段見られない優しさやユニークな面も垣間見ることができました。また、私事ですが、結婚の際には 30 代の若さで仲人をしてくださり、長男、次男の出産後も子供を連れて勤務できる便宜を図ってもらい、公私共に大変お世話になり、このご恩は一生忘れることができません。

さて、40 年代に入ると白黒写真の中にカラーが混じ始めます。48 年度の卒園児は 70 人、この頃が園児数の最も多い時期だったと思います。その後園児数の減少とともに園長先生の活躍の場は、保育協議会や社会福祉協議会の役職へと移っていきました。こうした仕事で園長先生が園を留守にされた時は、事故の無い様大変緊張しました。しかし幸いにも比較的経験年数の多い職員で構成されていて大過なく過ごすことができました。

50 年代は、園舎の新築に伴い園児全体の三分の二（年長クラス）が東鵜に立てられた仮園舎で約六ヶ月過ごすことになりました。ところが移って二ヶ月経た頃、溝を隔てたすぐ隣の民家より出火するという事件が起きて、訓練とは違い本当に恐ろしい思いをして避難したことを今でも鮮明に覚えています。

新園舎での保育が始まると県内外からの視察等で来園者も多くなりました。また、保母会長職を退かれた後も中部女子短大、大垣女子短大、聖徳女子短大の非常勤講師などを任され、超多忙で次第に健康面での心配が出てきました。

中日社会功労賞や勲六等瑞宝章を受賞された時は、先輩の先生方とささやかなお祝いをしましたが、平成の時代に入ってからもそのメンバーで園長先生を囲んで古きよき時代の思い出話に花が咲き、そんな時の生き生きした先生のお姿が脳裏をよぎります。

私にとって園長先生は厳しい上司であった一方、優しい母親のような存在でもあり、人生の最高の師でありました。四十九年という長い間、園長先生と一緒に過ごすことができたことは本当に幸せでありました。

謝　　辞

平成 17 年度保護者代表　早川圭子

思い起こせば六年前、小さな命が喜びとともに私達の元にやってきてくれました。泣き声も小さく抱くと壊れてしまいそうでしたが、成長し保育園での集団生活を送ることとなりました。

手元から離れる寂しさに涙したこともありました。我が子はみんなと仲良くできるだろうか、泣いてはいないだろうかと心配しましたが、笑顔で元気に園児と接する先生方の様子、毎日の出来事を細かく伝えてくれたおたより、そして何よりも日に日に保育園に行くことが楽しみになってきた子供達の笑顔に安心し、先生方に感謝し、仕事を続けることができました。急な発熱、思いがけないケガでご迷惑をおかけしたこともありました。

運動会や作品展、リズム発表会など行事のたびに子供達の成長に驚き、また目頭が熱くなりました。入園した頃はおやんちゃを言ってお兄さん、お姉さんを困らせていたのに、このごろはすっかりお兄さんお姉さんぶりを発揮し小さな子達をお世話するとか、遊んであげるなどさすが年長さんと頼もしくなり、これほどまでに成長させていただいたのも、先生方のおかげと感謝の念に尽きることはありません。

そして何より忘れられないのは、いつも園庭で遊ぶ子供達を優しく時には厳しく見守っていらっしゃいました愛子先生の姿です。先生は挨拶を始め礼儀作法の基本をきちんと子供達に教えてくださいました。おかげで皆、ちゃんと挨拶のできる素晴らしい子供達に成長することができました。お体を壊されたとお聞きし、親子共々心配し、早く又元気なお姿をとお祈りしたものですが、浄土へと旅だたれました。

告別式での大勢の方々のお言葉や涙に愛子先生のお人柄がうかがえました。子供たちにとって大きな出来事であったでしょう。大好きな愛子先生の旅立ちは、人の命というもの、生きるということと、死というものを小さな心なりに胸を痛め感じとったと思います。そして今日この晴れの日をきっと愛子先生はいつものように目を細めて見てくれていると思います。

今日子供達はそれぞれの思いを胸に卒園していきますが、これからもみんなの行く末を見守っていただけるとありがたく思います。そしてこれからも誰もが安心して過ごすことができる保育園であってください。本当にありがとうございました。最後に先生方のご健康と園のますますのご繁栄を心よりお祈りしまして、お礼の言葉とさせていただきます。

注釈

この文章は、平成 18 年 3 月に行われました卒園式にて、平成 17 年度卒園生保護者代表早川圭子さんが述べられた謝辞から抜粋して掲載させていただきました。

鶉保育園にお世話になって

平成 18 年度保護者代表　土屋嘉瑞明

核家族化の進む日本社会の中で、我が家も渦中の４人家族。私も家内も仕事をしている為、２人の息子とも縁あって鶉保育園にお世話になることになりました。そして、上は卒園して小学校４年生、下の息子はもう「大きい緑」になりました。２人の息子を闘病生活に入られる直前まで、いつも温かく見守っていただいたのが愛子先生でした。

家内が職場へ復帰するためには、母親から少しでも離れると泣きじゃくる、まだ１歳に満たない乳飲み子の息子を預かっていただく必要性がありました。相談を申し上げると愛子先生は快く入園前の「慣らし保育」をご提案いただきました。最初は１時間、そして徐々に長時間の保育に慣らしていただき、息子が１歳になるとき、家内は安心して職場復帰を果たすことができました。

働くために我が子を預けている親としては、保育していただくだけでも感謝なのですが、鶉保育園での生活を通して、２人の息子は大きく成長をしました。全て語るのは難しいので、運動会を取り上げさせていただきます。それは鶉保育園の運動会に見られる多くの特徴が要因と思っております。みんなで大きな声を出す応援、手作りの万国旗、親子での踊り、潜在的な運動能力を引き出すタイヤ転がし、バランス感覚を磨く一輪車。これらは、鶉保育園と愛子先生が築き上げられたどれも素敵な活動です。

鶉保育園の運動会がすごいのは、これらが意図的に仕組まれた４層の重構造になっていることです。校区民運動会、敬老運動会、運動会、自分たちの運動会、と、子供の成長と発達の段階を踏まえ、経験を次の場に生かせる場面設定がしてあり、息子がどんどん生き生きとしていくのが伝わってきました。それは、経験が自信となり、次への活力になっているからでした。まだ競技の練習中の段階でも、祖父母に見てもらうことで刺激を受け、次の親が見る運動会はもっと頑張ります。それらの経験を生かして、自分たちの力で運動会をやってみるという流れの活動に、２人の息子は夢中で取り組みました。そこにはいつも笑顔で寄り添う先生方と愛子先生の姿がありました。

今年度、上の息子は小学校４年生になりました。学年種目で一輪車に挑戦しています。鶉保育園を卒園させていただいた息子は、一輪車に楽々乗れます。運動会には卒園児としてタイヤ転がしに参加したいと意欲満々です。鶉保育園と愛子先生の教えが今も息子のやる気になっているのが親としてとても嬉しいです。

鶉保育園のグランドでは、下の息子が一輪車に挑戦をし始めました。昨年度の運動会では、タイヤ転がしの上達ぶりを愛子先生に見ていただけなかったのが残念と思っておりましたが、今年度の運動会は、きっとどこかで園児達の成長ぶりを見守っていていただけるでしょう。きっとどこかで・・・。永遠に・・・。

本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。

堀江愛子保育者の願い

鶉保育園主任保育士　武冨尚子

この頃鶉保育園へ見学に来てくださる方が何人かいらっしゃいます。建物は古くこれと言ってとりえがあるわけではありませんが、「定員のわりには広いですね」と言ってくださる保護者の方がいらっしゃいます。おっしゃってくださるとおり、園舎は、ゆったりと保育ができるように建てられています。建物のところどころで、愛子保育者の願いがこめられています。

特に調理室は広く作ってあります。以前に比べ保育園に来てくださる子どもさんの数がだんだん少なくなり定員を減らしました。最も定員が多い時は 120 人でしたが、それにしても広いです。すぐ隣には、食堂、いわゆるランチルームが設置してあります。現在では保育園や幼稚園にランチルームがあることは珍しくないかもしれませんが、30 年近く前は、ランチルームがある保育園は少なかったと思います。

ランチルームを設けた理由は、故人が、子供たちに温かいものはできるだけ温かく食べさせたい、できるだけ調理されたばかりの給食を食べさせたい、と願ったからです。現在も子供たちは、隣の調理室から出来たばかりの給食が食べられます。寒い日は危険の無い様にストーブで温めながら温かい給食を出す事もあります。

また、保育室が保育だけでなく、食堂になったりお昼寝の部屋になったりする事を避けたくて、せめて食事だけは別の場所で、という故人の保育者としての切なる願いがあったからです。お昼寝は保育室でしていますが、せめて食べることだけは別の部屋で、と願った故人の思いが今も生きています。

乳児室の特徴は、トイレは前面透明なガラスであることです。保育者が常に乳児の様子を見ることできます。1 歳や 2 歳の子どもにとってトイレは必ずしも排泄をするだけの場所ではなく、時には好奇心を満たす遊び場になる時もあります。小さい子どもには、何時、何処で、何が起こるか分からない、という故人が幼児の安全を気遣ったからです。乳児室は園舎の中では、日当たりの良いもっとも良い場所にあります。小さいお子さんの保育を希望される方が少なかった 30 年近く前から、故人が、乳児をもっとも愛し、大切に思っていた事を知らされます。

かなり以前から岐阜市でも 3 歳未満や乳児の保育を希望される子どもさんが増えています。鶉保育園も来て下さる子どもさんは全体的に少なくなりましたが、現在 3 歳以下の小さいお子さんで入園を希望されるお子さんが増えています。1 歳までは母親の母乳で育って欲しいというのが故人の願いでしたが、様々な理由から現在は 6 ヶ月のお子さんから保育を行っています。最近では、長引く不景気のため、経済的理由で母親も働かねばならないという場合もあります。より豊かな生活のために、又母親本人の自己実現のために働きたい、社会参加したい、と願って仕事を持たれる場合も多く感じられま

す。これからの保育園は乳児保育を大切にしなければ、と強く叫ばれています。今後も、愛子保育者の願いを受けつぎ、社会のニーズに応えていきたいと思っています。

母の思い出

鶉保育園現園長　堀江謙雄

私は鶉保育園の園長だった母を尊敬していないわけではありません。母に感謝していないわけではありません。しかし、母を祈念するにふさわしい寄稿文を綴ることが出来ません。何かしら不満めいたことしか書けません。

私の幼い頃、母は保育園の仕事でかなり忙しかったに違いありません。おかげで幼い私の世話は、ほとんど私の祖母に任せっ切りだったと思います。姉のことは分かりませんが、あいまいな私の記憶では私の事はたいてい祖母が面倒をみてくれていました。

私が小学校のとき、作文で「家族そろって夕飯を食べたことがほとんどありません。」と書いたら小学校の先生が驚き、そのことに自分がびっくりしたことがあります。事実、夕飯は祖母や父や姉とは一緒に食べていましたが、母親が一緒だったようには思われません。

とにかく、忙しい母親でした。そして、ほとんど家にいない母でした。祖母がその代わりを十分に勤めてくれていましたので幼い私が寂しい思いをしたことはなかったと思います。

ただ私には母に対して強烈な思い出があります。それは私がこの鶉保育園に園児として在園したときの思い出です。

それは、園児としての自分が、保育園の先生である母親に叱られる時の恐怖です。まさに恐怖。それは大変な恐ろしさでした。

大方の場合、それは遊ぶことに我を忘れ夢中になっているとき起こります。きっと私が遊びに夢中になるあまり、羽目をはずしたに違いありません。その瞬間、「何やっとるの！」の一喝。まさに衝撃。その一喝に私も私の仲間も一気に縮み上がるのです。空っぽになった頭。ただ立ちつくすのみの私と私の腕白仲間。するとすぐに全員の頭頂部への鋭い拳固。痛い、本当に痛い。しびれ上がるほど痛い。そして反省の意味で十数分間立たされるのです。

子供の私は、「しまった」という、いやと言うほどの悔いを十数分間噛み締めることになるのです。しかし、子供ですから数日過ぎれば忘れてしまって元の木阿弥。そんな事を何度も繰り返していました。しかし、あの母親に叱られる一瞬の恐怖はいまだに忘れることが出来ません。

残念ながら、母もついに逝ってしまいました。何か重石が取れて楽になったような気分ですが、「これでいいのか。」と思う瞬間もある今日この頃なのです。

編集後記

愛子先生追悼祈念誌を、皆さんにお届けいたします。ご覧頂いたように、鶉地域の役員の皆さん、愛子先生と共に長年にわたり保育の仕事に精励頂いた諸先生方、鶉保育園職員の皆さん、歴代ＯＢ、現役の方々、そして園長先生や尚子先生から愛子先生のご功績や思い出、鶉保育園がこの地域の幼子達の育成にいかに貢献してきたか、沢山の貴重な原稿をお寄せいただきました。お忙しい中、快く寄稿して頂きありがとうございました。

また、園長先生と尚子先生には、貴重な写真や資料を提供いただき、編集に助言いただきました。一人でも多くの方に読んで頂ければと思います。

冊子と共に、鶉保育園講堂に愛子先生の絵と追悼の意味を込めた書を飾らせていただきました。絵は、仏様になられた愛子先生が子供達と楽しく遊んでいらっしゃる風景が描かれています。また、書はサトウハチローの詩「あかちゃんが　あかちゃんが」を写して頂きました。共に「愛子先生、長い間子供達を慈しんでいただきありがとうございました。私達保護者は愛子先生がいらっしゃったからこそ、安心して子供を預け、仕事や家事、地域活動に勤しむ事ができました。これからも子供達を見守って下さい」という願いから、こうした内容に致しました。鶉保育園にお越しになる機会がありましたら、一度ご覧下さい。

冊子の作成、絵と書の寄贈にあたっては、歴代ＯＢの方から代々貯蓄して頂いていました鶉保育園保護者会費から拠出させていただきました。愛子先生ご逝去以来、ＯＢの方々から貴重なご助言を頂き、又現役の皆さんともご相談してこうした形になりました。皆さんの意見を参考に役員一同知恵を絞ったつもりですが、前例の無いことでもあり、力及ばずのところが数多く見受けられるとは思いますが、気持ちを汲み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、鶉保育園の園児を始めとする全ての幼子の健やかな成長と、園に関わる全ての皆さんの健康とご多幸をお祈りして、後書きといたします。

平成 18 年 7 月 1 日
平成 17・18 年度鶉保育園
保護者会役員一同

追悼祈念書画家　略歴

追悼祈念画　画家

酒井　萠一　（さかい　ほういち）

岐阜市在住

画略歴

昭和４６年　岐阜県展文部大臣賞受賞
昭和４８年　水彩協会展入選
昭和５１年　アーティストユニオン・アメリカ巡回展出品
昭和５８年　三重県桑名郡長島町「蓮生寺」壁画制作
昭和５９年　日本グラフィック大賞展入選
昭和６３年　岐阜美並村「円空美術展」出品参加

他、各地ギャラリーにて個展を多数開催

追悼祈念書　書家

林　　汀園　（はやし　ていえん）

大垣市在住

岐阜県書作家協会常任理事
大垣美術家協会名誉顧問
大垣市美術展審査員

書略歴

昭和３５年　中央展及び地方展に出品し、数々の入賞、入選を果たす
～５５年　（日展、毎日展、日本書芸院展、謙慎書道会展　等）

おに見学の風景

社会福祉法人深広福祉会保育園
岐阜市中鶉４丁目１１１番地
電話：(058)272-2322